

## 仕切りのない部屋

究極のサステナブルとは、自然とともに生きることだ。

壁を一面完全に取り除いた。

部屋の扉を開くと、そこに「うち」はなく「そと」。

「そと」という自然や街とともに生活する。

常に「そと」を感じ、考えながら生活していくことが

サステナブルを考える上でとても大切になる。



賃貸住宅は人が入れ変わる。

人により部屋の空間は変化するため、「可変性」が大切になる。

固定された「壁」はいらない。  
空間の区切り方はもっと自由であるべきだ。

部屋の中にあるものは必要最低限でいい。  
トイレ・キッチン・バスなど必ず使い続けるものだけだ。

使い続けられることこそが本当の「サステナブル」につながる。

4×6×2.4 というワンルームを最大限に広く使う。

何もないからこそ、人により空間が変化する。

これからの時代に沿って、変化させていくこともできる。

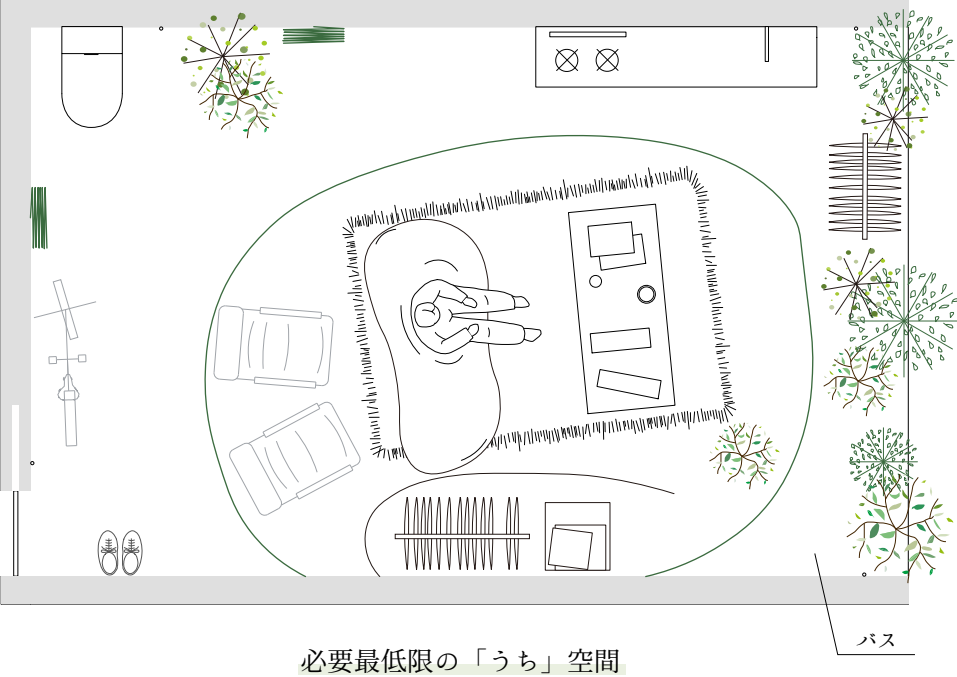
今、未来を見るだけでなく、未来にさらに未来を見ることができるような空間づくりが大切になってくるだろう。

可変性のある壁の使われ方

使う人により空間の使われ方が決まる。壁が自由に動くことで、様々な空間の使われ方になる。

<25歳 男性 1人暮らし>

【1人で過ごすとき】



可変性のある壁

自由な空間をつくることができる。

引き戸では溝などが必要になり、空間の動きに制限が出る。

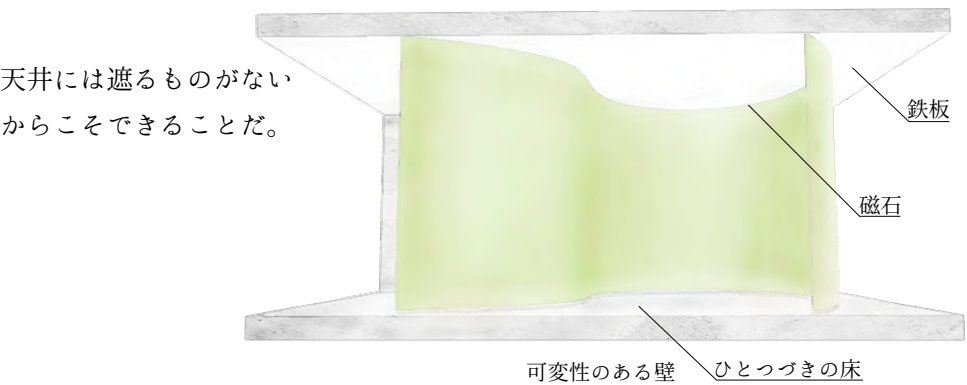
また、溝があると空間が分かれてしまう。

天井にレールを敷き、カーテンのように移動させるのでは、設計者の考えるもの以上になることがない。

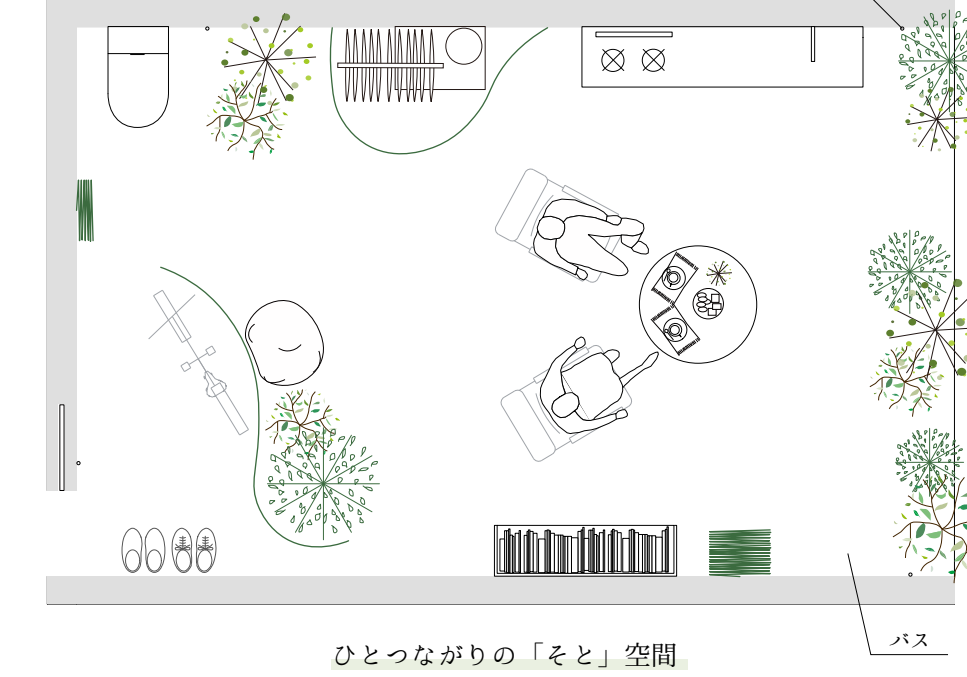
空間を使う人が自由に動かせるということが大切になる。

天井一面に「鉄板」を敷き、磁石の車輪を用いることで、空間を自由に移動することができる。

天井には遮るものがない  
からこそできることだ。



【友人と過ごすとき】



可変性のある壁の素材

キャンプのテントにも用いられる、ポリエステル+コットンでできた素材の「ポリコットン」を用いる。

耐火性、通気性、遮光性、結露しづらいなどの機能をもつ。

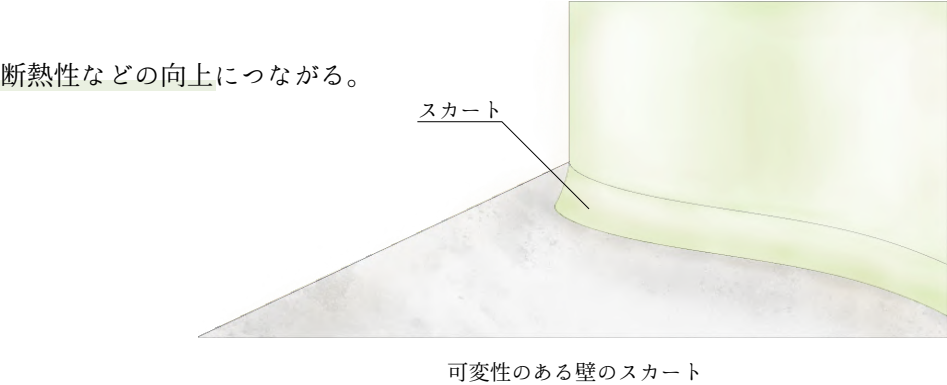
キャンプなどで使用するため、雨や風、断熱などが考えられている。

壁と床の隙間

テントのスカートのように、壁に「スカート」を取り付ける。

水や風の侵入を防ぐことができ、空気の移動も減らす。

断熱性などの向上につながる。



トイレ・キッチン・バス

<トイレ・キッチン>

壁沿いに最低限の機能のみ置く。

専用の空間ではなく、ワンルームの一部。

必要最低限の機能のみで成り立つ。

<バス>

天井からまるで「雨」のように降り注ぐ。

極限まで自然とつながった空間。

機能をそのまま置かないことで、  
空間に多様性が生まれる。

